★下線部　　が新規の内容

令和５年度　伊賀市立壬生野小学校マニフェスト

校長　　藪中　俊典

学校教育目標　「知と愛を大切に、共に輝く壬生野の子」の育成

めざす子ども像

〇自ら考え、判断し、動くことができる子ども
〇意欲を持って自ら学び続けようとする子ども
〇「自分が好き、自信がある」と言えるとともに、自分もなかまも大切にし、なかまとつながっていこうとする子ども
〇夢を持ってねばり強く取り組もうとする子ども

１【学力向上】重点　勉強が楽しいと思える取組を進めます。　※（　）内はR5　2学期児童の結果

☆「考えることが楽しい」と実感できている子ども　【９０％以上】(86%)
☆「先生は分かるまで教えてくれる」と実感できている子ども　【８５％以上】(76%)
☆毎日、決められた時間以上、家庭学習をしている子ども　【８０％以上】(71%)
（低学年：３０分以上　　中学年：４０分以上　　高学年：６０分以上）
☆１０分間はメディアを消して、家で 10 分以上読書（読み聞かせ含む）をしている子ども　【８０％以上】(55%)
☆２１時以降は、ゲーム機やスマホ、タブレットを使用しないという約束を守っている子ども　【８０％以上】(66%)

①できるだけ１時間の授業において、発言する機会を保障する。
②「教えて」「分からない」と言える子どもの声を大切にした授業づくりに努める。
③家庭での時間を自ら管理できる力を育む取組を保護者の方とともに進める。
④１０分間はメディアを消して、家族の時間を持つようにする取組を保護者とともに進める。
⑤21 時以降は、ゲーム機やスマホ等を居間で管理する取組を保護者とともに進める。

２【人権】重点　自己肯定感を高める取組を進めます。
重点　マイノリティーの子どもとともに育つなかまづくりの取組を進めます。

☆「自分が好き、自信がある」と言える子ども　【８０％以上】(55%)
☆「学級は話しやすい雰囲気がある」と言える子ども　【８０％以上】(78%)
☆自分の思いを言葉や文字で伝えることができるようになってきたと実感できる子ども　【８５％以上】(62%)
☆友だちのことで初めて知ったことがあったと感じている子ども　【８０％以上】(62%)
☆学習の様子やくらしの様子を伝え合う一枚文集を毎月３号以上発行する。　【８０％以上】(平均月 1.5 号)

①活動後の振り返りの場をもつことで、達成感を感じるとともに、互いのがんばりを認め合うようにする。
②思いを伝え合う場を大切にし、自分や友だちの可能性や良さを認め、お互いを大切にできる関係を築く。
③短い文章で、考えや思い、感想を書く機会を増やす。
④それぞれの国の文化や習慣などを知る学習を行い、互いの文化のよさに気づく機会をもつ。
⑤月３号以上（年間一人１回以上）は、一枚文集を通じて、くらしの事実を伝える機会を持つ。

３【キャリア】重点　「自ら考え、判断し、動く」取組を進める。

☆「自分で仕事を見つけて、動くことができた」と言える子ども　【８０％以上】新規
☆「自分の将来の夢」を具体的に話ができる子ども　【８０％以上】(78%)

①何をするのかを決めさせ、やり切ったことを見届けるようにする。
②出合い学習や体験活動を通して、自分の将来のこと（仕事、夢、目標）を考える機会をもつ。

４【連携】開かれた学校づくりに努めます。

☆保護者等が「ＨＰや学校からのたよりを通して、学校の様子がよくわかる」と感じている　【９５％以上】(94%)
☆保護者等が「学校は、保護者や地域の方の意見に耳を傾け、学校改善に努めている」と感じている　【９５％以上】

①ＨＰ更新や「学校・学級だより」発行等により、子どもの姿や学校の取組を知らせる。　(96%)
②個々の事案について、事後の取組についても伝えることで、家庭や地域の方との連携を積極的に進める。

５【職場環境】毎日、子どもたちと元気に向き合うために、働きやすい職場づくりをめざします。

☆会議や研修会は、６０分以内に終わる。　【８０％以上】
☆１９時までに、学校の施錠をする。（水曜日は定時退校）　【８５％以上】
☆年間、１５日以上の休暇を取得する。　【９５％以上】

①ペーパーレス化とともに、事項書に時刻を明示し、終了時刻を意識させる。
②退勤予定時刻を「見える化」し、帰りやすい職場の雰囲気をつくる。
③各学期始めに、各自が休暇取得計画を作成し、組織として計画的に休暇取得しやすい職場環境をつくる。

壬生野小PTA 努力目標　　明るく健康で、心豊かな子どもを育てよう